



【ステップ1:スケジュールを決める】

- 大まかに仮のスケジュールを決めます。
 1. 問題を見つける
 2. 分からないことを明確にする
 3. 分からないことを解決する
 4. アウトプットする



【ステップ2:問題を見つける】

- 問題を見つけるといっても、普段意識していないと、なかなか見つからないかもしれません。

ここが第1関門になります。自由に見つけていいと言われると楽なようで意外と難しいものです。
- あなたが、なんか気になるなあ、不思議だなあ、面白そうだなあと感じたことをベースにして考えます。
- 本屋さんに行ってみたり、インターネットで検索してみたりしてあまり深く考えないで、なんとなくピンと来たなどの直感で選んでみてください。

ピンと来たということは、あなたの脳が何かをつかんでいて、うまく表現できないだけという可能性が高いです。
- あなたのこどもさんが ”どうして？” と聞いてきたことについて調

べてみようとするのもいいアイデアです。

- 講座に申し込む段階で、自分が何にに関心があるのか分からないという状態で構いません。あなたと対話しながら、あなたの関心を引き出していきます。
- 脳は考える器官ですので、意識しなくても、無意識でもずっと何かを考えています。だからちょっと、何気ないギモンを意識するクセをつければ、あなたの関心が見えてきます。
- 意識をもってみると、何気ない日常の中にギモンが見えてきます。気になったことはメモをとる、やさしい本を選んで拾い読みしてみるなどしてみると、だんだん関心が見えてきます。
- しかし、人それぞれ合うやり方がありますので、あなたと対話しながら、あなたのクセに合わせて、あなたが一番やりやすい方法を見つけられるように、臨機応変に手助けします。



【ステップ3:分からないことを明確にする】

- なんか気になるなあ、不思議だなあ、面白そうだなあと思ったことを、“ここが分からない”という状態へもって行って、何を理解すればいいかを見つけ出します。
- あなたが自分で気がついて自分の力で、関心のある問題から、“ここが分からない”状態に発展できるように、あなたと対話をしながら手助けします。

- ①情報を集める→②読む→③分かったことを分析、整理→④もっと分かりたいことをピックアップする→⑤”これが解決したい問題”だと思ふものを抽出する→まだ情報が必要と思ふ時は、また情報を集める→読む……と繰り返して行くことで、”ここが分からない”が明確になってきます。
- 自分が納得する、”これが解決したい問題”を見つけるまで、少し試行錯誤が必要になるかもしれません。
- なかなか納得いく、”これが解決したい問題”、が出てこないのは、苦しいものです。くじけないように手助けします。
- 関連する情報を集めるといっても普通は最初はよく分からないかもしれません。どのような資料を集めたらいいか、あなたと対話しながら臨機応変に手助けします。
- 最初からたくさん資料を集めすぎないほうがよいです。ちょっと集めて、読んで、整理して、またちょっと集めて、読んで、整理してと少しずつやっていくほうが良い場合が多いです。
- 資料の読み方として、問題意識をもって読む、こういう場合はどうか？本当にそうか？など自問自答しながら読むと良い場合が多いです。
- 集めた情報を100%読もうとすると、読む段階でくじけてしまいます。1回目はざっと見る、2回目は少し関心のあるところを重点的に読む、3回目はもう少し情報が必要だということを重点的に読むなど工夫としたほうが良い場合が多いです。
- 読んだ情報の整理の仕方のコツとして、自分の言葉でメモを書く、キーワードをメモするなどがよいです。頭の中が整理されます。

- しかし、人それぞれ合うやり方がありますので、あなたと対話しながら臨機応変に手助けします。



【ステップ4:分からないことを解決する】

- 調べても納得いく情報がない問題は、自分で答えを考えることとなります。
- どうなれば解決とするかを決めます。(問題を解く、実験する、調べるなど)
- これまで集めた情報から考えて、100%の力を出しても無理と感じたら、難しい問題すぎます。解決する問題をもう少しやさしい問題に変えます。
少しがんばればできるかもしれないと感じる問題に変更します。
よく分からないのが普通です。直感で決めます。
うまくいかなければ、またここに戻ってやり直せばいいのです。
- 問題を解こうと思っても、最初はどのようにいいか分からないのが普通です。問題を小さい要素に分解していきます。要素に分解したものを更に要素に分解して・・・繰り返して問題をシンプルにしていきます。
- 直接は関係しないかもしれないけど、他に似たような問題がないかを考えて調べるのもいい方法です。
- 要素に分解した問題で、解決できるものは解決していきます。

まだすぐに解決できそうにないものは更に要素に分解していきます。

- 最後に、“これさえ解ければ納得”という状態に持っていきます。
- 要素に分解して解決を繰り返していくうちに・・・だんだん精度が高まって、答えに近づいて行きます。
- 要素に分解して調べるを繰り返して、なかなか納得いく答えが出てこないのは、苦しいものです。くじけないように手助けします。
- 集まった情報をもとに答えを考えてみます。ステップ3の”分からないことを明確にする”の段階で調べても、納得いく答えがなかったのですから、ちゃんとした正解はないのかもしれませんが。テストの回答のような答えでなくて良いのです。あなたなりの納得できる答えを導き出せれば良いのです。
- 自分なりの答えを考えたら、この場合はどうか、あの場合はどうか・・・別の角度で考えてみます。これで理解が身について、応用する力が身につきます。



【ステップ5:分かったことをアウトプットする】

- 自分の言葉で分かったことをまとめます。
- まとめ方は自由です。



【ステップ6:あきらめない力をつける】

- あなたが自分で決めたことは、長く持続できます。
- 失敗のない人はいません。途中でうまくいかないことがあるのは当たり前だと考えましょう。
- 失敗は、うまくいかないことが分かって良かったと思きましょう。
- 試行錯誤を繰り返して、行き詰ってしまった時、答えのひらめきはもうすぐのところまでできています。